

玉野市立胸上小学校

児童生徒数 111名 学級数 8学級 ・教職員数 18名（平成26年7月18日現在）

○取組実践のキーワード

基礎的な技能・知識の習得

○標題（研究主題）

学びを実感しながら育つ子ども

○取組を始めた経緯

全国学力調査実施後に自校採点を行い、学習指導要領の内容ごとに正答率を比較して分析した。その結果、中学年での内容が定着していない傾向が見られた。

そこで、はじめに既習事項の確実な定着を目指し、併せて活用の力も付けたいと考えた。そのためには、児童が学習活動に意欲的に取り組む態度を養うことが大切であると考えた。

○取組の実施体制

- ・校内学力向上委員会を立ち上げ、研究主任を中心に校内研究との関連を図りながら実践を進める。
- ・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭との連携を密にして家庭学習の充実に努める。
- ・地域に学習支援ボランティアを依頼し、3年生を中心に放課後学習を行う。

○学力向上に向けた具体的な取組

1 授業以外での補足的な学習

- ・朝の「パワーアップタイム」で、国語と算数の既習事項の復習を実施。
- ・放課後の学習支援ボランティアの協力を得て「おさらい会」を実施。
- ・校長テストを実施。

2 学習指導の共通理解

- ・「話し方や聞き方指導」「板書の仕方・ノートの書き方指導」等、基本的な指導の在り方について共通理解を図る。
- ・単元内で、「習得」に重点を置く時間と「活用」に重点を置く時間とを区別し、授業のねらいを明確にして指導する。
- ・発表は自分の考えを最後まで話すように指導する。また、問いに対し、正しく答えているのかを常に意識するようにも指導する。
- ・国語、算数での指導の観点を共通理解する。

<例>

低学年・・・「順序よく」

中学年・・・「順序よく」＋「分ける（まとめる）」

高学年・・・「順序よく」＋「分ける（まとめる）」＋「対比、類比」

3 家庭学習の充実

- ・家庭学習の手引きの指導
- ・「げんきっこ」調べで、家庭学習の状況をチェックし、家庭と連携して賞揚する。

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

- ・学力向上委員会を組織し、課題と今後の取組を示すことで、教員の意識が高まった。
- ・算数科では、単元に入る前に習得と活用の時間を明示し、児童が単元計画を理解して取り組めるようになった。
- ・授業では、考えを書かせたり話し合わせたりする授業に対して様々な工夫が見られるようになった。
- ・家庭や地域との連携協力が促進されてきた。

2 課題

- ・習得と活用を区別しにくい内容（単元）の指導方法について、更なる教材研究や指導過程の在り方。
- ・児童一人一人の実態に応じた習得と活用の時間配分。
- ・家庭学習に積極的な児童とそうでない児童との二極化傾向。

○取組の継続・発展の要因

- ・年度初めに学力向上委員会を組織し、4月初めに取組の内容と方向性を示したこと。
- ・既存の企画委員会の構成メンバーで学力向上委員会を組織したこと。
- ・担任の指導に加え、他の職員、家庭、地域の支援が得られる体制にしたこと。

○管理職・中核教員等のアクション

- ・組織的に取り組めるよう、学力向上委員会を校務分掌に位置付けた。
- ・研究主任をリーダーとすることで、校内研究と関連した取組を進めた。

○その他の資料・写真等



地域の学習支援ボランティアによる放課後学習の様子